

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 1 1 期 だい 1 年 だい 3 回 だい 2 日
(第 1 1 期 第 1 年 第 3 回 第 2 日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2016 (平成 28) 年 1 2 月 1 1 日 (日) 午後 2 時 ~ 5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 23 人

葉 元聡、鈴木 イエレナ、金 スンオグ、タカハシ ライゼール ラモス、レ
ベト ギア カン、幕内 嘉雯、河本 ファビオ 良則、ヘイ ジャフイ、
スタント イルワン、ピーターソン ケリー、河 相宇、バルトコバ オクサナ、
ホサニ アハマド ユースフ、牟 鳳菊、ドイツトマー ダニエラ、韓 籬、
ザスカ カリーナ、徐 智妍、キースタ ケーシー ジェイ、蔣 香梅、鎌田
ファチマ、ヒラチヤン アスカ、サリ アビシエク

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、北谷 担当課長、須藤 課長補佐、笛木 課長
補佐、岩切 担当係長、丸橋 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 2 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ヘイ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議 2016 年、第 3 回第
2 日を開催する。本日は、エドワードさん、ヴィラマーさんとアルナンシュサ

んが欠席だ。次に、今日の日程と配付資料の確認について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ヘイ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。(なし)では、議事に移る。まずは、オープン会議の振り返りを行う。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2、2-1、2-2に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。(なし)では、最初に運営やプログラムについての振り返りを行いたい。事前の準備や会議の進行などの運営、プログラムについて、またグループディスカッションについての感想や改善点など、意見や感想があればお願いする。」

タカハシ委員「参加者の感想に時間が足りなくて深くディスカッションするのが難しい、場所が不便という意見があった。改善できるとよいと思う。」

ヘイ委員長「私も麻生区なので、いつもちょっと遠いなとは思っている。」

ピーターソン委員「すごく細かいことだが、模造紙にグループ名が書いてあったが、配布されたものが違ったので少し混乱した。もう少しスムーズにできたらよかったと思う。」

キースタ委員「コメンテーターについてだが、個人的には期待していたものと違った。私たちの発表に対してコメントしてもらおうというよりも、ゲスト自身に話をしてもらおう方がよいのではないかなと思う。」

ホサニ委員「思っていたよりも参加者が少なかったもので、もう少しPRを考えた方がよいと思った。とくに外国人の人にもっと参加してもらいたい。」

葉委員「PRの仕方もあるかもしれないが、来日して日が浅い人は日本語能力が低く、会議に参加するのに言葉のハードルを高く感じているかもしれない。一応、代表者が通訳をすることになっているが、今までの経験では通訳をしたことはない。そうした人たちが参加しやすい工夫ができればと思う。」

スタント委員「事前に質問や意見をメールなどで受けつけることができればよい」

ヘイ委員長「では、次に全体の感想や今後の審議に生かした方がよいと思ったことなどについて意見を聞きたい。」

タカハシ委員「防災について、コメンテーターが話してくれたのだが、熊本県の地震が起きたときに、外国人たちがいろいろな専門用語を聞いて不安になり、

パニックになってしまったという話があった。このことは提言につなげることができないのではないかと思う。」

金委員「たしか、熊本の震災の報告書が出ていると言っていたと思うので、読んでみたい。それと、先ほどコメントーターについての意見があったが、私自身はよかったと思っている。あとは、町内会の話が出たことにコメントーターも驚いていたが、あらためて地域との関わりの重要性を感じた。」

タカハシ委員「すみません、もう一回。グループディスカッションで出た意見だが、夫婦で両方とも日本語ができなくて、2年間も子どもの予防接種ができなかったというケースがあったそうだ。その対策として、市からのお知らせに重要だとわかる印や表現があったらよいのではないかということを経験した。」

サリ委員「情報についてだが、必要な人に届いていないという意見があり、LINEやFace bookなどのSNSを活用したらどうかということも議論の中で出た。必要な人に自分で情報を入力してもらおうプル型ではなくて、必要な人に情報を届けるプッシュ型にしなければいけないと思う。登録制のメルマガなどにして積極的に発信するのがよい。」

ヘイ委員長「いろいろと意見が出たが、次の議事とも関連すると思うので、議事を進める。次は部会の設置についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3、3-1、3-2、3-3、3-4に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問はあるか。(なし)では、まずは審議テーマの数について決めたい。正副委員長と事務局の案では、全体で6つとなっている。1つの部会で3つ、合わせて6つだ。何か意見はあるか。(なし)では、案の通り6つということで賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)次に、審議テーマを絞って決めたい。先ほどの説明にもあったように、なるべく具体的なかたちで審議テーマの候補を挙げて欲しい。」

タカハシ委員「先ほども言ったが、とくに災害時の専門用語などについて審議したい。もう1つ、妊娠から1歳くらいまでは予防接種などもあり、行政との関わりもお多いし、不安も大きい。情報の提供面で改善できることがあると思う。」

キースタ委員「基本的にほとんどのテーマが情報に関連していると思うが、とくにウェブの改善について審議したい。」

ヘイ委員長「私からも。欠席している副委員長からの伝言だが、これまでのグループワークなどでも出てきた意見だが、日本語が話せない外国人が急に

病院に行っても大丈夫なように、病院でのタブレット端末を使った通訳サービスについて審議したいとのことだ。」

ディットマー委員「ちょっと表現が強いかもしれないが、日本語学習の義務化について。たんに義務化するというよりは、要は日本語学習の可能性を広げることに審議したい。」

ヘイ委員長「その日本語学習というのは、誰に対してか。大人か、子どもか。」

ディットマー委員「どちらかという是社会人向けだ。子どもは学校でカバーできる部分もあるが、社会人として日本に来て日本語ができない人が日本語を学習するような、学習しやすいような体制の強化が必要だと思う。」

タカハシ委員「医療関係だが、グループワークのときに出了意見で、クリニックのドアに利用できる言語がわかるような目印が欲しいというアイデアがあった。」

葉委員「オープン会議のグループディスカッションで出了意見の1つだが、言葉を教えあう機会を設けようというのがあった。川崎市には各区に日本語教室があるが、週に1回、2時間程度では限界がある。日本語を学びたい外国人と外国人からいろいろと学びたい日本人のマッチングの仕組みができればよい。」

スタント委員「ダニエラさんは社会人向けの日本語学習についてだったが、やはり子ども向けの日本語学習も必要だと思う。日本語指導の制度はすでにあるが、期間は限られているし短い。必要に応じて延長できるような制度が必要だと思う。」

サリ委員「日本語学習についてだが、義務化とすると外国人からも抵抗があると思う。日本語能力検定試験のための講座のように、何か資格がもらえるなど目標があるとよいのではないか。今だと、お金を払って語学学校に通っていると思うが、市で講座を開いたらどうか。」

ホサニ委員「2つある。1つは医療関係で、救急の場合だ。何語でも救急車が呼べるようにというのと、救急車の中でもタブレットが使えとよい。もう1つは防災で、災害時緊急情報の多言語化対応は重要な課題だと思う。」

金委員「いくつがある。まず、年金について。調査結果でも未加入者が多くいることがわかったが、制度がよくわからないという声も聞くので相談窓口がないというのが問題だと思う。外国人がどのようなことで困っているのか知るためにも試験的に窓口を設置してはどうだろうか。それと、他の方から出ていないので

言っておきたいが、オープン会議のグループディスカッションの時にヘイトスピーチに対して非常に憂慮されている方がいた。他の自治体では制度を設けているところもあるそうで、外国人市民代表者会議でも審議して、市に提言を出してくれないかとのことだった。」

ヘイ委員長「年金の問題について確認したいのだが、何かしらの相談会などを一時的に設けるとのことか。」

金委員「多言語で相談を受ける窓口を日常的に設置するのはかなりハードルが高いと思う。ニーズがわからないということもあるので、まずは試験的に窓口を設置できないかという提案だ。」

ヘイ委員長「それと、ヘイトスピーチについては私のグループでも話が出て、正副委員長会議の時にも話題になった。重要な問題だという認識はあるが、一方で非常にデリケートな問題で私たちが審議して何か提言が出せるのかということがある。事務局に確認をしたところ、市としても別の会議で専門的に審議し、取り組みを検討しているということだった。私の印象では、この会議として提言というかたちで市に対して何か要望を出すのは現実的に難しいと思う。ただ、みなさんとしてもやはり重要な問題なので見過ごせないということであれば、たとえば4月の市長報告の際に、提言ではないが、市長に伝えるというのはどうだろうかとは考えている。」

スタント委員「子どもの学習についてだが、日本人の子どもと外国人の子どもの学習能力の違いに関する調査を実施したらよいのではないか。」

ディットマー委員「基本的に賛成だが、学習に絞らなくてもよいのではないか。外国につながる子どもたちの実態と課題を把握するような調査がよいと思う。」

ピーターソン委員「私も報告書を読んで外国につながる子どもたちがとても多くいるという印象を強くもったが、日本の国籍をもっている子もいて、実態の把握が難しいと思った。」

韓委員「3つある。1つ目は、子どもの調査だけではなく、防災意識に関する調査もした方がよいと思う。2つ目は、外国人との交流を深めるためにホームステイの制度をつくった方がよいと思う。3つ目は、妊娠から乳幼児期の子どもの年齢に沿った手引きがあるとよいと思う。」

ヘイ委員長「いろいろと意見が出たが、事務局の印象も聞きたい。事務局は何か気になることなどはあるか。」

事務局高橋専門調査員「この会議はあくまでも代表者が意見を話し合っていて、代表者の

みなさんで提言を決めるものだ。事務局が提言にしているとか、しては駄目だということを行う立場にない。そのことを前提にした上で、考えるための情報提供という意味も含めて専門調査員として少し気になったことを指摘させてもらいたい。あくまでも、参考として聞いて欲しい。たとえば、メルマガというアイデアがあったが、川崎区にはすでに多言語のメルマガがあるがそれは知っているか。何が言いたいかというと、メルマガというアイデアが本当に有効なのかということの検証が必要なことだと思う。日本人と外国人のマッチングという話もあったが、この交流センターのロビーにもマッチングボードのようなものが、それは知っているか。これも、まずはきちんと事実を踏まえた上で、提案をして欲しいという意味だ。それと、日本語学習の義務化というのは非常に難しい問題だ。問題意識としては、日本語ができるようになった方がよいというのが素朴にあるのだと思う。そのことは理解できるのだが、もう少し現状の取り組みを踏まえた上での課題と改善案を出してもらいたい。川崎市では各区に日本語教室があるが、基本的にはボランティアさんたちが中心の活動だ。一方的に、こういうニーズがあるから、こうして欲しいとは言えない。一方で、日本語検定のための講座を市が提供するというのは、正直、理解を得るのは難しいと思う。資料説明の時にも話したが、この会議は市に対して提言するものなので、何でも提言できるわけではない。そう考えたときに、そもそも民間の語学学校のようなそれをビジネスとしてやっているところがあり、また試験に合格するために高い授業料を払って語学学校に通っている人たちもいる中で、日本語能力検定試験のための講座を市が提供すべきというのは理解や共感が得られないと思う。安い授業料で市にやって欲しいと思う気持ちはわからなくはないが、やって欲しいというだけでは難しい。ホームステイの話もあったが、これも交流協会がホームビジットという制度をやっている。子育ての手引きという話もあったが、それについても各区には子育てガイドブックというものがあり、第10期の提言の1つは子育てガイドブックの多言語化だった。ほかに、調査というのが2つほどあったと思う。まず、それなりの調査を実施するならば、それほど簡単に実現できるものではない。それなりに予算も必要になってくる。子どもの調査の方でいえば、ケリーさんも言っていたように外国につながる子どものうち、日本国籍か、外国国籍かというのを把握するのが難しい。予想だが、調査が実施できたとしても、おそらく自己申告になるのではないかと思う。いろいろと指摘させても

らったが、あくまでもみなさんが議論する上での基本的な情報だと思って理解してもらいたい。」

ヘイ委員長「今の指摘を受けて何かあるか。」

レベト委員「私たちが、実は制度や情報をよく知らないということがよくわかった。その上で、1つ質問したい。いろいろと制度や情報があるということがわかったが、私たちが困って何か調べるときに、市として情報を体系的にまとめたようなものを提供していたりするのか。」

事務局高橋専門調査員「おそらく、一番イメージに近いものとしては「多言語情報資料一覧」というものがある。多言語情報資料の一覧をリスト化して、毎年更新している。外国人市民情報コーナーに置いてあるし、市のウェブサイトでも見ることができる。」

ヘイ委員長「ほかに何かあるか。(なし)それでは、ここで少し休憩をとりたい。いろいろ意見も出たし、指摘もあったので休憩中に頭を整理してください。」

(休憩)

ヘイ委員長「では、再開する。事務局と休憩中にテーマを整理してみたので、まずは説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が説明。)

ヘイ委員長「別のこれで決定というわけではないので、何か質問や意見はあるか。」

(なし)では、先ほどの指摘も踏まえて、それぞれのテーマについてあらためて検討したい。とくに、提言のイメージがもてないものなどあげてもらいたい。」

キースタ委員「私たちが議論をして、結論を出しても、具体的な取り組みに結びつかなそうに感じるものがいくつかある。その1つはヘイトスピーチだ。金さんと同じグループだったので、たしかにオープン会議の時にぜひ何とかして欲しいという要望は受けとった。ただ、この会議で深く審議して結論まで出すのは難しいように感じる。それと、調査を実現するのは実は簡単ではないという話があったが、もし調査が実現できれば、今、私たちが調査結果を活用しているように、後の代表者にとってとても役に立つと思う。」

ヘイ委員長「私からも1つ。先ほど指摘されたように大人の日本語学習については、

ボランティアが中心の活動というのもあり、具体的に市に何ができるのかという部分で難しいようにも思うのだが、提案した人たちはどうだろうか。」

サリ委員「なぜ、市がやらなければいけないのかという理由が弱いということだったが、私は逆に、なぜ市がやってはいけないのかと思う。民間の企業がビジネスとしてやっているものを市が積極的にやる理由がないということだったが、私の周りにも日本語を勉強したいけれど、そんなに高いお金は払えないという人がたくさんいる。本当に外国人に日本語をわかって欲しいと思うなら、民間が何をしているのかとは別に市がやってもいいのではないか。検定試験といったのは、目標がないと誰も興味を持たないからだ。」

ドイツとマー委員「川崎で実現できるのかはわからないのだが、今、ドイツではインテグレーションコースというものがある。移民の人たちが社会に適応できるようにするために、国も積極的にお金を出している。言葉だけではなくて、文化なども含めて日本の生活に適応するためのサポートの仕組みとして考えたらどうだろうか。」

徐委員「私も川崎市に初めて住む外国人が日本語教室とか、今ある情報をいろいろ知ることができるように、セミナーのようなものを開いたらどうかと思う。ウェルカムセットなどに案内を入れて定期的に開催したらよいのではないか。」

ザスカ委員「情報というところでピンポイントになるが、さっきの休憩時間に川崎市のアプリをダウンロードしてみたのだが、たとえば災害情報で大きな見出しは英語になっているのだが、具体的な災害場所などは漢字で書かれている。英語か、ひらがな、ルビがあった方がよいのではないか。」

金委員「もう1つ、先ほどの年金の相談窓口とは別に介護保険についても相談窓口の設置をできたらと思う。調査結果でも、半分以上の人が年をとったら日本の施設に入るか、介護サービスを利用するだろうという見通しをもっていった。前期の時にはどういったニーズがあるかわからないということで、提言には結びつかなかったが、窓口が設置されればニーズがわかるかなと思う。私の母の友達で韓国語しか話せず、多分、家族も韓国語の方が日本語よりも得意な方がいる。ずっと具合が悪くて寝ていて、介護保険を利用してサービスを受けたらどうかと言ったのだが、役所に行って相談をするというのはやはりハードルが高いようだ。あくまでも一例なので、いろいろなケースがあるのだろうが、なかなか声が届かないということがある。」

ヘイ委員長「年金とは別に新たに相談窓口の設置ということか。」

金委員「そうだ。」

ヘイ委員長「新たに出了されたことなので、先ほどと同様に事務局は何か気になったことはあるか。」

事務局高橋専門調査員「気になるのは、相談できる窓口ということであれば、年金にせよ介護保険にせよ、たとえば国際交流協会の多言語相談がある。直接相談もできるし、電話でも相談できる。試験的に窓口の設置ということだが、なぜ既存の相談窓口の利用では駄目なのだろうか。もし、交流協会の相談窓口があまりよくないということであれば、課題はそちらの窓口の改善というテーマになるのではないか。」

金委員「交流協会の相談窓口では、個々の申請手続きでどこまで具体的なサポートがしてもらえるのか。手続きをするときに自分の言語でしたいというのがある。」

事務局高橋専門調査員「年金や介護のほかにも通訳のニーズはあると思う。そうした時に、現実的に考えるとすべての窓口に外国語が話せる専門のスタッフを置いて欲しいというのは、期間が短かったとしても難しいと思う。実際には、専門的な知識をもった職員と言語ができる人がペアで対応するということが現実的だと思う。」

キースタ委員「私も専門的な通訳を見つけるのは難しいと思う。そう考えると、たとえば定期的に相談会のようなものを開催するというのはどうだろうか。」

タカハシ委員「金さんの話は高齢者だが、最近の子育て世代も多い。自分の言葉で説明を受けたいというのは、ニーズとしては同じではないか。」

金委員「私がイメージしているのは相談会や説明会ではない。個別の対応が必要なケースだ。」

ヘイ委員長「では、年金・介護の相談窓口を追加することにしたい。そろそろ時間なので、6つに絞る作業に入りたいが、ほかに何かあるか。」

ホサニ委員「調査については、調査をして欲しいということだけなので、それほど審議が必要ないと思う。調査は簡単に提言にできるのではないか。」

ヘイ委員長「事務局から調査の扱いについて何かあるか。」

事務局高橋専門調査員「まず、調査については、みなさんが報告書を使って勉強をしたように大きな調査を5年に1回するというのがすでに提言として出ている。外国につながる子どもについても、防災についても調査項目の中に含まれてい

る。今回、調査票をつくった時には、専門家が調査票を作成した上で、代表者の人たちにも意見を聞いて反映させたりした。もし、改善した方がよいことがあれば、そういった方法もある。これは提言にする必要がないし、かなり実現性が高い方法だと思う。一方で、たしかに大きな調査ではあまり細かいことは聞けないということもある。個別の調査をして欲しいという意見はわかる。ただ、先ほども言ったように、調査を実施するというのはみなさんが思っているほど簡単ではない。調査データが欲しいという理由が、みなさんが審議をするための参考材料という意味だとすると、子どもや防災に限らず、とにかくいろいろなことでまずは調査をして欲しいと言ってしまう。提言にするからには、時間をかけて審議をした上で、なぜ調査が必要なのか示して欲しい。審議をせずに、提言にするというのはよくない。また、調査という大きな審議テーマで、その場でいろいろな調査について話されても資料が準備できない。」

サリ委員「提言ということではなく、「お願い」というかたちではできないのか。」

事務局高橋専門調査員「それはできない。もちろん、みなさんが審議していることから、提言にならなかつたとしても事務局が意見を担当部署などに伝えてそれが反映されることはある。たとえば、ちょっとした工夫や簡単に改善できそうなことなどは、提言にしなくても取り組みに結びつくこともある。ただ、提言とは別にインプットオーバーな人たちではっきりと要望を出すということとはできない。それは提言の重み、価値を下げることになる。」

サリ委員「では、それぞれの提言の中で中長期的に調査をして欲しいということを入れればよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「それも結局は、どんなテーマについても言ってしまう。全部の提言の中に、調査を実施して欲しいと入るのは好ましくない。提言の作りを見てもらえばわかると思う。念のために言うておくが、調査を提言することが駄目だと言っているわけではない。まずは、既存の調査があるので、その範囲の中で改善できることなのか、それともやはり個別の調査が必要なのか。もし、調査が必要ということであれば、審議をしないで提言するのではなく、きちんと審議をして、調査をする目的をはっきりさせてもらいたいということだ。」

ヘイ委員長「では、審議テーマが全体で6つというのはすでに決まったことなので、多数決で決めたい。1人最大で6回まで手を挙げてください。3分ほど考え

る時間をとるので、その間に決めてください。審議テーマにするのであれば、何についての調査なのかははっきりさせておいて欲しい。」

【希望】

- 1 防災・災害 - 18
- 2 子育て（妊娠～乳幼児期） - 13
- 3 情報 - 17
- 4 医療・病院 - 14
- 5 大人の日本語学習 - 11
- 6 日本人と外国人の交流 - 7
- 7 子どもの日本語学習 - 8
- 8 年金・介護の相談窓口 - 7
- 9 ヘイトスピーチ - 0
- 10 外国につながる子どもの調査 - 6
- 11 防災に関する調査 - 2
- 12 外国人向けオリエンテーションコース - 15

ヘイ委員長「手を挙げてもらった結果、防災・災害、子育て（妊娠～乳幼児期）、情報、医療・病院、大人の日本語学習、外国人向けのおりエンテーションの6つに決まった。ちょうど時間なので、今日は審議テーマが決まったところまでとする。今日の審議は以上だ。次回、審議テーマのグループ分けをした上で、部会に分かれて審議を深めてもらう。最後に、事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・年次報告書の作成について
- ・マイナンバーの提出について
- ・各種行事のアンケートについて
- ・議事録の確認について

ヘイ委員長「何か質問はあるか。（なし）最後に、私からも連絡しておきたいことがある。私事になるが、大学の研究調査の関係で海外に行くため来年の

1月と2月の会議に参加できない。副委員長のエドワードさんと引き継ぎをしておくが、みなさんもサポートをお願いします。次回の会議は年が明けて、来年の1月15日の日曜日、午後2時から、ここ国際交流センターで開催する。これで、2016年度第3回第2日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」